

三重県環境影響評価委員会小委員会
－第8期管理型最終処分場建設事業に係る環境影響評価準備書（第2回）－
調査審議概要

平成30年11月12日（月）10時00分～

三重県勤労者福祉会館 第2教室

委員：前回小委員会で、周辺の農地からの臭気と事業所内から発生する臭気の測定結果をどう見分けるのか、という事を質問させていただきましたが、ご回答いただきました、臭気については風向きによる違いを見るということと、また、水質については観測地点を増やしていただいたということで、納得が이었습니다。そのようにしていただけるとありがたいと思います。

また、植物を場内で栽培、管理されているのと同じように、水がきれいに排出されますよ、という指標として、何らかの魚を飼ってはどうか、という提案をしたことについては、それを組み込んでいただき、アマゴの飼育というところを回答していただいたので、ありがたいと思います。淡水魚で非常にきれいな水を好む魚を指標にされるというのは、排水される水が常にきれいに浄化されて排水してますよ、という事のアピールにもなるし、伊賀市は水がきれいなのが特徴の市なので、そういうところでも効果的なのかなと思います。以上です。

委員：短い間にいろいろとご対応いただいて感謝しております。湿地環境を作っただけは、非常にありがたいと思いますが、こういうところは何年かすると乾いてくるので、時々見ていただいて、手を入れていただく、自然の流れに抗うようなことをしていただけると、こういう場合はありがたい。ぜひそのようにしていただけたらと思います。

また、事業所を前回拝見させていただいて、花などをきれいにし、草刈りなんかも頻繁にしておられました。自然ということになると、必ずしもよいことでもない。そういった視点も常にもっていただくと良いと思います。

指摘事項への回答で、クロマルハナバチについて、蜜源植物を植えて保全に役立てる、ということですが、クロマルハナバチの数を決めている一番の原因は、おそらく春先の営巣環境です。クロマルハナバチは、冬、交尾済みの女王が越冬して、一匹で巣作りを始めるのですが、このときに、例えばノネズミの古い巣の地中のちょっとした空間とかに作り始めます。これの数が少ないと、マルハナバチは少なくなってしまいます。蜜源植物よりはおそらくそちらのほうが大事なんです。

そうなってくると、単にクロマルハナバチのことを見ているだけじゃなくて、それ以外の、ノネズミとかが住みやすいような環境も必要になってくるので、そういう「割と全体的に自然が多いな」というようなものを作っただけだとよりいいと思いました。できればお願いしたいと思います。

全体的には非常にすばらしい環境への配慮をなさっているからこういう風に事業が長

く同じ場所で続けておられるんだろうな、と非常に感銘を受けました。

委員：緑化に関しては、「在来種で緑化する」、という事業者が多いが、「在来種が見つからなかった所以他のでやりました」と言われることがしばしばあります。表土をそのまま取っておけば在来種になりますが、すぐに緑化できないものですから、なかなかこういう提案は受け入れてもらえないところですが、今回、そうしていただけるのは非常にありがたいことだと思います。

外来種のアレチウリですが、6月から8月にかけて抜き取りしていただくということですが、アレチウリは一年草で、6月に双葉が出るので、それだけ抜き取っていただければ大丈夫です。小さいときに取っていただければと思います。

それから、先ほど委員がおっしゃったクロマルハナバチのことですが、クロマルハナバチは夏季に夏眠し、夏に咲く花は実は蜜源になりませんので、できれば春と秋に咲くようなものがあればいいかと思います。

最後に外来種のもうソウチクですが、伐採するのは大変ですが、春にタケノコを除去すれば、コストをあまりかけずにできますので、そういったかたちでやっていただければいいかなと思います。

委員：騒音・振動関係は、準備書の段階で適切な配慮がなされていると思い前回はコメントしませんでした。伊賀市長から低周波音に関する意見がありましたが、低周波音の騒音源の特定は大変ですので、長い目で対応いただければと思っています。また、近隣住民の方々から苦情等が発生した場合には真摯に対応いただければと思っています。